

みやぎの

7月号

農業普及現場



普及活動標語

思いを形に、あなたのチャレンジ支えます。
応援します。農業普及

NEWS LETTER No.209 2024.7

紹介内容 (6/1~6/30)

1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技术の活用等による生産基盤の強化

- ① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - 登 米農改：JAみやぎ登米花卉部会、スターチス専門部で出荷査定会・現地検討会が開催！
 - 亘 理農改：「幻のメロン クールボジャ」の出荷が始まりました
 - 栗 原農改：RTK直進アシストトラクター大豆播種実演会を開催しました
 - 登 米農改：JAみやぎ登米花卉部会菊専門部で出荷査定会・現地検討会が開催！
 - 大 崎農改：清水地区法人化研修会が開催されました
 - 亘 理農改：JA名取岩沼ハウスきゅうり部会抑制きゅうり栽培講習会でコーヒー残渣を使用した土壌還元消毒について情報提供しました
 - 亘 理農改：「ピーマン・パプリカの現地巡回指導会」が開催されました
 - 石 巻農改：加工用ばれいしょの生育を確認！石巻地域現地検討会を開催

- ② 新たな担い手の確保・育成・・ 3
 - 登 米農改：農地整備事業古宿地区の担い手が加工用トマトを視察しました
 - 石 巻農改：石巻4Hクラブが青空市を開催しました
 - 気仙沼農改：令和6年度気仙沼地区農業士会総会が開催されました
 - 美 里農改：第1回美里地区みやぎ農業未来塾「資質向上研修」を開催しました

- ③ 先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
 - 石 巻農改：大豆用高速畝立播種機で適期播種を実現！

- ④ 園芸産地の育成・強化支援・・ 5
 - 亘 理農改：JAみやぎ亘理北部果樹部会りんご摘果講習会が開催されました
 - 亘 理農改：いちごの育苗研修会が開催されました
 - 仙 台農改：JA新みやぎあさひなぶどう部会の無種子化講習会が開催されました
 - 美 里農改：【今年の夏も野菜の高温対策を！】JA新みやぎ松山営農センターで野菜栽培講習会が開催されました
 - 気仙沼農改：南三陸町でぶどう栽培研修会を開催しました
 - 大河原農改：いちじく芽かき講習会が開催されました
 - 大 崎農改：ぶどう栽培者の巡回指導を実施しました
 - 亘 理農改：なとり・ぐるっと親子講座で「なとりの花」アレンジメント体験が開催されました
 - 亘 理農改：JAみやぎ亘理花卉部会土壌管理講習会が開催されました
 - 石 巻農改：加工用ばれいしょ生産者決起集会で産地拡大を加速！
 - 大河原農改：ワークショップ：果樹農家のグループトークを開催しました！
 - 仙 台農改：JA新みやぎあさひなりんご部会の現地検討会が開催されました
 - 登 米農改：JAみやぎ登米キャベツ部会現地検討会が開催されました
 - 栗 原農改：栗っこズッキーニフェアを開催中です

- 石 巻農改：今まさに満開！オリーブ園巡回
 - 仙 台農改：JA新みやぎあさひなねぎ部会栽培講習会と若手生産者交流会が開催されました！
 - 登 米農改：令和6年度登米地域果樹産地協議会総会が開催されました
- ⑤ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- 石 巻農改：水稲乾田直播栽培現地検討会が開催されました
 - 石 巻農改：大豆栽培講習会が開催されました
 - 石 巻農改：刈取前の麦類現地検討会が開催されました
 - 登 米農改：小麦ほ場巡回指導会が開催されました
 - 登 米農改：JAみやぎ登米迫稲作経営部会の現地検討会が開催されました
 - 登 米農改：「特A奪還」を目指し、つや姫栽培講習会が開催されました

2. 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

- ① 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- 気仙沼農改：酒米サポーターズの田植えが開催されました
 - 亘 理農改：みやぎ食材伝道士認定に向けた生産現場実習「りんごの摘果作業」が亘理町の遠藤果樹園で開催されました
 - 大 崎農改：大崎地域「畑わさび」栽培現地検討会を開催しました
 - 気仙沼農改：表山田・三段田地区ほ場整備事業推進委員会が開催されました
 - 大 崎農改：色麻町特産えごまの播種作業を機械化しました
 - 美 里農改：小牛田地域精進料理の会が定例会を開催しました
- ② 環境に配慮した持続可能な農業生産の取組支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
- 大 崎農改：病虫害防除に関する研修会を開催しました
 - 美 里農改：新型アイガモロボがお披露目！スマート農機の活用で環境にも人にも優しい農業を！

1. 人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

○JAみやぎ登米花卉部会、スターチス専門部で出荷査定会・現地検討会が開催！

令和6年6月7日
登米農業改良普及センター



令和6年5月30日に、出荷最盛期に向けて、JAみやぎ登米花卉部会スターチス専門部の出荷査定会・現地検討会が開かれました。

JAみやぎ登米大瀬集出荷場での出荷査定会では10人が参加し、市場関係者から助言を受けながら規格・品質の目合わせを行うとともに、今後の品種選定や出荷の方針についても話し合いが行われました。

また、現地検討会では、今後収穫を迎えるハウスを巡回し、病害虫の発生が少なく生育・品質とも良好であることを確認しました。

普及センターからは今後の栽培管理や農薬の適正使用について情報提供を行いました。特に農薬の適正使用については、薬剤耐性及び抵抗性の発達を防ぐためのローテーション散布を呼びかけました。

普及センターでは引き続き産地発展に向けた支援を行ってまいります。

○「幻のメロン クールボジャ」の出荷が始まりました

令和6年6月11日
巨理農業改良普及センター



令和6年6月8日から、農事組合法人林ライスで栽培されてきた岩沼市特産「幻のメロン クールボジャ」の出荷が始まりました。市内の旧相野釜ハウス園芸組合の組合長から技術継承を受け、2度目の収穫となります。

4月上旬から定植を行い、組合員一丸となって整枝、芯止め、ミツバチによる交配・着果、病害虫防除などの丁寧な栽培管理を行ってきました。これまで一部で株枯れ症状の発生がありましたが、かん水管理の見直しなどを行いながら対応してきました。

販売は予約販売のみで、今年度は作付面積を倍増したものの既に5月中には予定数量に達し、現在のところ新たな注文はお断りしている状況です。今後も糖度確認を行いながら、6月下旬にかけて収穫、箱詰め、発送作業が行われます。

普及センターでは、これまでの栽培管理の内容をとりまとめ、次作に向けた改善点などについて引き続き支援していきます。

○RTK直進アシストトラクター大豆播種実演会を開催しました

令和6年6月18日
栗原農業改良普及センター



令和6年6月12日（水）に、RTK直進アシストトラクターによる大豆の播種作業の精度の高い直進性を確認し、それに続く中耕培土作業などがより容易に行えることの実証を目的として、栗原市志波姫地区の水田で開催しました。

大豆栽培において収量・品質の向上を目指している生産者やRTKシステムに関心のある生産者をはじめ、JA新みやぎの職員など24人が参加しました。

実演会では、ヤンマーアグリジャパン株式会社東北支社アグリサポート部のご協力により、RTK直進アシストトラクターに装着されたパワーハローによる大豆の播種前の耕起・整地・鎮圧作業、その後、真空播種機による播種作業の実演が行われました。

参加者は、RTK直進アシストトラクターの直進性や等間隔での耕起や播種作業に興味を示し、その様子を真剣に見つめていました。

普及センターでは、今後も大豆栽培における収量・品質の向上、RTKシステムの利用拡大に向けて支援してまいります。

○JAみやぎ登米花卉部会菊専門部で出荷査定会・現地検討会が開催！

令和6年6月18日

登米農業改良普及センター



令和6年6月11日に、スプレーギクの出荷が増える時期に向けて、JAみやぎ登米花卉部会菊専門部の出荷査定会・現地検討会が開かれました。

JAみやぎ登米大瀬集出荷場での出荷査定会では5人が参加し、市場関係者から助言を受けながら出荷に関する調製の目合わせを行うとともに、今後の品種選定や来年度の出荷スケジュールについて話し合いが行われました。

また、現地検討会では、今後収穫の最盛期を迎えるハウスを巡回し、品種特性や栽培する際の注意点について、実物を確認しながら情報交換を行いました。

普及センターからは今後の栽培管理の注意点や農業の適正使用について情報提供を行いました。特に、向こう1か月の平均気温は高温で推移する見込みであるため、高温対策やアザミウマ類の防除を呼びかけました。

普及センターでは引き続き産地発展に向けた支援を行ってまいります。

○清水地区法人化研修会が開催されました

令和6年6月26日

大崎農業改良普及センター



色麻町清水地区では、農地整備事業を契機に担い手への農地集積や高収益作物の導入を行うことにしており、清水集落営農組合を中心に地域営農体制の検討を進めています。

令和6年6月19日には、清水地区法人化研修会が開催され、集落のベテランから若手農家、女性など25人とJA、町、普及センター職員6人が出席し、集落営農の取組から法人化を検討する場合の制度や運営・資金などについて勉強しました。

講師の県担い手育成総合支援協議会事務局長 藤牧人氏からは、法人の形態や会計、財務管理などについて、さらにJA加美よつば営農販売部次長 根本光男氏からは、法人設立直後の円滑な運営のポイントなどについて事例紹介を交えて講演がありました。

出席した農業者からは、「大変わかりやすかった」との感想が聞かれ、それぞれに「法人化したら自分の経営はどう変化するのか」とか「リタイヤしたら誰が耕作するのか」などの疑問を考える良い機会となったようです。

普及センターでは、今後も関係機関と連携して清水地区の地域営農体制の検討を支援していきます。

○JA名取岩沼ハウスきゅうり部会抑制きゅうり栽培講習会でコーヒー残渣を使用した土壌還元消毒について情報提供しました

令和6年6月26日

巨理農業改良普及センター



管内のきゅうり産地では、ホモブシ根腐病の対策として化学薬剤による防除や米ぬかを使用した土壌還元消毒（高温で湛水し病原菌を殺菌する土壌消毒方法）の取組みが行われてきましたが、前者は作業者の負担が大きいことまた両者ともに資材価格が高騰した状況にあり代替策が望まれていました。

当普及センターでは、令和5年から大手飲料メーカーの協力によりコーヒーを抽出した後に廃棄されるコーヒー残渣を使用した土壌還元消毒を当部会と連携して実証してきました。昨年、安価で防除効果が高いことが証明されたため、今年は管内で10名の生産者が取組むことになりました。

本栽培講習会では、コーヒー残渣の特徴やコーヒー残渣を使用した土壌還元消毒のコツについて実証事例に基づき情報提供を行いました。

生産者からは、「コーヒー残渣がなぜ土壌還元消毒で使用可能であるのか」や「殺菌効果を高めるための方法」について質問があり、「油分も十分に含まれており易分解性有機物であるため」や「有機物分解菌を十分に増殖させるためにも2週間から3週間の消毒期間を設けること」等の指導を行いました。

当普及センターでは、安価で環境にやさしい土壌消毒方法等の普及を通じてきゅうり生産を引き続き支援していきます。

○「ピーマン・パプリカの現地巡回指導会」が開催されました

令和6年6月27日

亘理農業改良普及センター



令和6年6月3日(月)にJAみやぎ亘理南部営農センター管内にて、「ピーマン・パプリカの現地巡回指導会」が開催されました。夏に向けて定植後の生育確認と、現地指導を兼ねて開催したものです。

山元町山下地区では10人程度の生産者がピーマンとパプリカを栽培しています。県南地区の温暖な気候と、パイプハウスを利用し、秋遅くまで出荷しています。

現地巡回は関係機関4人で、6人の生産者を巡回しました。ピーマンでは、アブラムシや斑点病に注意し、適切に防除するよう助言しました。パプリカでは、4月以降の天候により草勢が強くなっているため、最初の果実はやや大きめにしてから摘果する等、生殖成長とのバランスをとるようにすることと、葉欠き、整枝等の管理作業を今後強めに行うことなどをアドバイスしました。

巡回の結果、今年の生育は順調でしたが、虫の発生がやや多かったため、生育を見ながら適切な防除を呼びかけました。普及センターでは、収量アップに向けた管理等の支援を引き続き行っていきます。

○加工用ばれいしょの生育を確認！石巻地域現地検討会を開催

令和6年6月27日

石巻農業改良普及センター



令和6年6月19日に東松島市矢本地区と石巻市桃生地区で加工用ばれいしょを栽培している農業法人を対象に「石巻地域ばれいしょ現地検討会」を開催しました。農業法人3社のほか、JAいしのみきの営農担当者や県関係者など20名が参加しました。

普及センターからこれまでの気象経過や耕種内容等を説明し、生産者からは取組状況が報告されました。また、加工用ばれいしょの出荷先であるカルビー

ポテト株式会社から「排水対策」や「尿素溶液による追肥」などの説明をいただきました。収穫にはまだ1か月ほどありますが、同社によるいもの掘り取り調査では、いもが順調に肥大していることが確認できました。

一部の排水不良畑で生育不良は見られるものの、今のところ、生育は概ね順調で、早いほ場では7月20日位から収穫できる見込みです。

普及センターではJAいしのみきと連携して、これからもばれいしょの作付け拡大に取り組んでいきます。

②新たな担い手の確保・育成

○農地整備事業古宿地区の担い手が加工用トマトを視察しました

令和6年6月6日

登米農業改良普及センター



登米市迫町古宿地区では、農地の再整備による担い手への集積、大区画化(2ha区画)による低コスト化、スマート農業の導入による省力化、高収益作物の生産拡大を目指し、令和6年度農業競争力強化農地整備事業に採択されました。

令和6年5月25日に、古宿地区の担い手が、ヤママーアグリジャパン株式会社や、農業・園芸総合研究所からの紹介で、栗原市金成にある農業法人の加工用トマトの定植作業約50aを視察しました。

地区担い手である、株式会社アグリふなこしでは、現在、加工用ばれいしょを約50a試作していますが、新たな品目として、加工用トマトを検討しており、定植、収穫の機械化体系や、各作業に必要な人数、注意点などについて、視察先や関係機関からアドバイスを受けました。

普及センターでは、今後も生産者同士の繋がりを大切にして、登米管内の新たな担い手の育成と高収益作物の生産拡大に向けた取組について支援を行ってまいります。

○石巻4Hクラブが青空市を開催しました
令和6年6月12日
石巻農業改良普及センター



令和6年6月7日に、石巻地域4Hクラブ員が野菜や花苗を直売する青空市を、石巻合同庁舎前で開催しました。

当日は地域住民の方を中心に多くのお客様の来場をいただき、用意したブロッコリー、きゅうり、トマト、キャベツ、花苗等は予定時間よりも早く完売する盛況ぶりでした。来場者からは「新鮮な野菜が手ごろな価格で嬉しい」「開催チラシを見ていて楽しみにしていた」といったうれしい声が多く聞かれました。主催したクラブ員らも手ごたえを感じていた様子で、次回開催に向けて意欲が高まっていました。

当普及センターでは、4Hクラブ活動をに向けて、引き続き支援していきます。

○令和6年度気仙沼地区農業士会総会が開催されました

令和6年6月18日
気仙沼農業改良普及センター



令和6年6月13日、気仙沼市本吉町内で、気仙沼地区農業士会の令和6年度総会が開催され、会員7人及び関係機関5人が出席しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、これまで書面開催が続きましたが、今回は対面での開催となり、少し緊張した雰囲気の中で始まりました。

山内寿行会長のあいさつ、気仙沼農業改良普及センター所長の祝辞の後、議事が進められました。議案は全て承認され、研修会や情報交換会の開催など今年度も地域農業の振興及び若い担い手の育成に向けて活動していくことを確認しました。

普及センターでは、引き続き地区農業士会の活動を支援していきます。

○第1回美里地区みやぎ農業未来塾「資質向上研修」を開催しました

令和6年6月27日
美里農業改良普及センター



令和6年6月14日（金）に農事組合法人みらいす青生（美里町）を会場に、第1回美里地区みやぎ農業未来塾「資質向上研修」を開催し、宮城県農業大学校水田経営学部2年生が参加しました。

はじめに、宍戸代表理事組合長から、土地利用型作物や野菜など約100haの大規模経営の概要や雇用状況についてお話しをいただいた後、実際に当法人に就職した県農業大学校OB2名を交え「農業法人に受け入れられるための準備について」をテーマに意見交換を行いました。

参加した学生から、「学生時代に修得すべき資格や技能はあるのか」、「ベテランの方と円滑にコミュニケーションをとるためにはどうすればよいのか」などといった質問があり、「フォークリフトの免許を取得しておくとお務で役立つ」、「普段から地元の方や農業大学校職員と会話をする機会を作って、年上の人と話すことに慣れておくこと」といったアドバイスをいただき、有意義な研修会となりました。

最近では、県農業大学校卒業生の進路として農業法人への就職が年々増加傾向にあり、農業法人側も人手不足の中で、人材獲得への動きが活発化しています。

普及センターでは、今後も将来的な農業の担い手確保のため、就農希望者や新規就農者の資質向上に向けた支援を継続していきます。

③先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化

○大豆用高速畝立播種機で適期播種を実現！

令和6年6月13日
石巻農業改良普及センター



令和6年6月11日(火)に当普及センター主催で「RTKを活用した大豆高速畝立播種機実演会」を開催しました。本会は大豆の優良種子生産に向けた指導を兼ねて開催されたものです。

大豆用高速畝立播種機は令和5年に販売が開始された播種機です。従来の耕耘同時畝立播種機は作業速度が2～3km/hですが、高速畝立播種機は6～7km/hの作業が可能で、麦刈りや降雨により遅れがちな大豆の播種も、適期に短期間で行うことが可能になります。

実演会には生産者・関係機関ら25名が参加し、古川農業試験場の研究員による高速畝立播種機の特徴や播種前の整地のポイントの説明を熱心に聞いていました。

石巻地域では県内大豆生産量の約22%を占める大豆の主要な産地です。当普及センターでは、今後も優良大豆の生産支援およびスマート農業技術の活用による省力化に向けた支援を行っていきます。

④園芸産地の育成・強化支援

○JAみやぎ亘理北部果樹部会りんご摘果講習会が開催されました

令和6年6月3日

亘理農業改良普及センター



令和6年5月22日に亘理町逢隈神宮寺のりんご園を会場にJAみやぎ亘理北部果樹部会主催の摘果講習会が開催されました。今回は果樹後継者も対象とし、当日は20人程の参加がありました。

普及センターからは、気象経過、りんごの開花状況について報告し、予備摘果の作業手順について説明しました。摘果の実演を通して、参加した農家は改めて摘果の作業手順等を確認していました。また、全国的に発生量の多い果樹カメムシ類の飛来が管内のりんご園でも確認されているので、防除対策について情報提供を行いました。さらに、ジョイント栽培の管理や樹勢について質問があり、講習会終了後に各生

産者のりんご園を訪問して指導を行いました。

普及センターでは、品質の高いりんご生産に向けて、栽培管理及び病害虫防除の支援を行っていきます。

○いちごの育苗研修会が開催されました

令和6年6月3日

亘理農業改良普及センター



令和6年5月21日にJAみやぎ亘理のいちご選果場を会場にしてJAみやぎ亘理いちご部会主催で令和7年産いちごの育苗研修会が開催され、35人の生産者が出席しました。

JAいちご部会での令和6年産の作付面積は52.3ha、生産者191人となっています。5月末現在も出荷が続いているところですが、出荷終了後すぐに育苗管理が本格的に始まります。

研修会では、昨年の収穫遅れとなった原因と、育苗期間の施肥管理について普及センターから説明を行い、今年は苗の段階で花芽分化を確認してから定植することを徹底するように確認しました。

また、温暖化が進む気候のもとで、病害虫の発生が変化し、新たに被害が拡大している害虫対策についても情報提供し、農薬のローテーション等についても併せて紹介しました。

研修を受けた生産者は、今後の管理と次作に向けた苗づくりのポイントを再確認し、生産者間での情報交換も熱心に行っていました。

普及センターでは、今後も育苗管理を中心とした栽培技術の向上をはかり、計画的な安定生産ができるように支援していきます。

○JA新みやぎあさひなぶどう部会の無種子化講習会が開催されました

令和6年6月3日

仙台農業改良普及センター



令和6年5月28日に、大和町内のぶどう「シャインマスカット」生産者のハウスを会場に、JA新みやぎあさひなぶどう部会の栽培講習会が開催され、部会員16名が参加しました。

当普及センターが講師となり、この時期に必須の作業である、花穂整形作業や無核化処理等について説明を行いました。花穂整形作業については、作業を開始するタイミングが重要であり、花穂の状態を解説しながら、花穂整形の実演も行いました。また、品質の高いぶどうを生産するために、病虫害防除も重要な作業であることから、防除暦を配布し、薬剤の特徴について説明しました。特に今年は、春先に気温が高い日が多かったため、開花が早くなっており、作業が遅れないよう呼びかけました。

普及センターでは今後も、高品質なぶどうの生産に向けて同部会を支援していきます。

○【今年の夏も野菜の高温対策を！】JA新みやぎ松山営農センターで野菜栽培講習会が開催されました

令和6年6月3日

美里農業改良普及センター



令和6年5月21日、JA新みやぎ松山営農センターで野菜栽培講習会が開催され、ミニトマトや白ねぎなどの生産者12人が参加し、夏季の高温対策や管理のポイントなどについて学びました。

講師には、宮城県農業・園芸総合研究所の鹿野弘上席研究員を迎え、高温等の環境条件に合わせた品種の選定やかん水等の作業を行うタイミング、遮光資材の活用方法等について説明がありました。

また、スケールメリットで考える露地野菜の栽培体系や松山地域で広がる西洋野菜の取組等についても触れ、野菜の栽培管理について広く学ぶ機会となりました。

普及センターからは、昨年の夏季の気象経過と野菜品目ごとの高温の影響等について報告するとともに、気象予報や県の試験研究等、これからの栽培管理で役立つ情報サイトを紹介しました。

生産者からは「昨年の夏は、例年になく発芽不良や腐敗等が生じて大変だったので、このような講習会で高温対策等を知ることができて良かった。」といった声がありました。

今年の夏も高温になる可能性が高いと言われています。普及センターでは、異常気象への対策などを支援し、園芸品目の安定生産を推進していきます。

○南三陸町でぶどう栽培研修会を開催しました

令和6年6月4日

気仙沼農業改良普及センター



令和5年11月に南三陸町のぶどう生産者で設立された「南三陸大粒ぶどう協議会」では、会員が生産した大粒種ぶどうのブランド化を目指しており、ブランド化の前提として高品質なぶどうの生産に向けた栽培技術の向上が必要とされています。

そこで、令和6年5月24日に協議会の会員9人を対象に普及センター主催による栽培研修会を開催しました。普及指導員が講師となり、新梢誘引や花穂整形等の栽培管理については実演を交え、また無核化処理や副梢管理等の今後の重要な栽培管理について説明を行いました。参加者からは、「形の悪い花穂はどう扱うのか」、「無核化処理のタイミングが難しい」など、多くの質問や意見が寄せられたほか、参加者同士で活発な意見交換を行っている様子も見られ、有意義な研修会となりました。

普及センターでは、会員9人の技術レベルを平準化するため、今後も支援を行っていきます。

○いちじく芽かき講習会が開催されました

令和6年6月4日

大河原農業改良普及センター



令和6年5月21日、蔵王町において、JAみやぎ仙南蔵王地区いちじく部会の「いちじく芽かき講習会」が開催され、普及センターからの資料説明を行った後に、参加者相互で検討しながら実際に芽かき作業を行いました。今年度は以前の部会員も含めて新たに3人が加わり、初心者からベテランまでの栽培者が集まった中での講習会となりました。

今後も部会では講習会等を計画しており、普及センターではJA等と連携して、継続的な支援に取り組んでいきます。

○ぶどう栽培者の巡回指導を実施しました
令和6年6月5日
大崎農業改良普及センター



普及センターでは園芸振興や中山間地域の活性化、管内直売所の販売額向上などを目的に令和3年度から4年度の2か年にわたり、プロジェクト課題「直売所と連携した中山間地域でのぶどうの生産・販売」を実施しました。

活動を実施した時点では、植栽直後で収穫には至らない未結果樹であった園地も順次結果樹齢を迎えており、直売所への出荷も年々増加してきています。このため、活動期間終了後もフォローアップのための巡回指導を継続しています。

商品価値の高いぶどうの果実を生産するためには、季節ごとに手間のかかる作業を行う必要がありますが、今回は、あ・ら・伊達な道の駅に出荷予定の生産者6戸を巡回し、この時期の作業である花穂整形や新梢管理に関する巡回指導を行いました。今回巡回した生産者はいずれも年々技術が向上してきており、この秋の高品質果実の出荷が期待されます。

あ・ら・伊達な道の駅をはじめ管内の農産物直売所では、「シャインマスカット」など地場産ぶどうの出荷が年々増えてきています。普及センターでは、今後も摘粒などの房づくりや新梢管理、せん定など季節ごとの作業時期の巡回指導を行い、高品質ぶどう生産に向け支援を行っていきます。

○なとり・ぐるっと親子講座で「なとりの花」アレンジメント体験が開催されました
令和6年6月10日
亘理農業改良普及センター



令和6年6月1日に、名取市地域農産物等消費拡大推進協議会（名取市農林水産課事務局）が主催する、なとり・ぐるっと親子講座「なとりの花」アレンジメント体験が名取市役所会議室で開催されました。

使用した花材は、カーネーションやバラなど名取

市花卉生産組合が栽培した地元産の切り花等であることが紹介されました。

参加した16家族42人の親子は、講師から花の挿し方のコツを教わりながら、集中してアレンジを仕上げていき、それぞれにきれいなアレンジメントができあがるのを楽しんでいました。

できあがったアレンジメントはそれぞれ持ち帰って自宅等に飾られ、地元の花き産地について理解を深める良い機会になったと思われます。

当普及センターでは、今後も関係機関と連携して花き産地の活動を支援していきます。

○JAみやぎ亘理花卉部会土壤管理講習会が開催されました

令和6年6月10日
亘理農業改良普及センター



令和6年6月6日にJAみやぎ亘理花卉部会カーネーション班・洋花班土壤管理講習会がJAみやぎ亘理本所会議室で開催されました。

今回は、カーネーション班と洋花班の3人に対して、普及センターから土壌分析結果をもとに、次作の施肥管理等について講習しました。

出席者は栽培経験が長い生産者でしたが、塩基等の蓄積したところについては施肥を控えることや塩基のバランスが重要であること等を説明し、数字を見て納得した等の感想がありました。

普及センターでは、JA等と連携して持続的な花き生産を支援していきます。

○加工用ばれいしょ生産者決起集会で産地拡大を加速！

令和6年6月11日
石巻農業改良普及センター



令和6年5月27日に、JAいしのまき主催のもと石巻地域で加工用ばれいしょ生産に取り組む農業法人や関係機関が一堂に会し、「100ha産地を目指す決起集会」が開催されました。

加工用ばれいしょを取り扱うカルビーポテト(株)からは栽培に関する情報、JAいしのまきからは「100ha産地」を目指す具体的な構想等の説明がありました。

石巻普及センターからは本年度より発行を始めた「ポテト通信」による定期的な情報提供等を通して「加工用ばれいしょ産地としての発信の取組」を周知しました。

生産は水田を利用した栽培が多いため、当所では特に排水や病害虫防除対策等の情報を提供し、この取組を支援しています。

○ワークショップ:果樹農家のグループトークを開催しました!

令和6年6月11日

大河原農業改良普及センター



令和6年5月24日(金)に「果樹農家のグループトーク」を開催しました。このグループトークは、当普及センターが取り組んでいるプロジェクト課題「果樹産地の維持・発展に向けた若手果樹生産者を中心としたネットワーク構築」の活動として開催しました。

グループトークでは、農繁期の労働力確保や園地引き受けの課題等について意見交換を行いました。参加者全員が若手果樹生産者で共通点が多かったため、お互いの意見に頷く様子が多くみられる和やかな意見交換となりました。また、ChatGPTのデモンストレーションも行い、参加者は生成AIの能力に興味津々な様子でした。

6月21日には、若手果樹生産者を対象とした果樹の主要病害についての研修会を開催する予定です。普及センターでは、果樹産地の維持・発展に向け、引き続き若手果樹生産者への支援を続けてまいります。

○JA新みやぎあさひなりんご部会の現地検討会が開催されました

令和6年6月11日

仙台農業改良普及センター



6月5日、JA新みやぎあさひなりんご部会の現地検討会が開催されました。

当日は参加者の園地を巡回しながら、栽培管理や生育、病害虫の発生状況等の確認をみんなで行いました。今年の4月上中旬は比較的雨が少なく、気温も高めに経過しており、受粉の状況もよく、病気の発生は少なくなっています。凍霜害の被害も確認されませんでした。霧の影響で果面にサビが発生している品種もありました。害虫の発生状況については、果樹カメムシ類が確認されたり、ハダニ類が防除水準以上いるなど、害虫防除に注意が必要ことが分かり、次回の防除で使用する薬剤について、アドバイスをしました。

普及センターでは、今後も引き続き防除や栽培管理指導を行い、果樹の安定生産を支援してまいります。

○JAみやぎ登米キャベツ部会現地検討会が開催されました

令和6年6月13日

登米農業改良普及センター



令和6年5月24日、JAみやぎ登米キャベツ部会の部会員7名が参加し、登米市米山町のほ場で現地検討会が開催されました。

今作は病害虫の発生も少なく、天候にも恵まれ、順調に生育が進んでいました。普及センターからは、今後は気温が上昇し降雨の多くなる時期となるため、品質を落とさないよう、病害虫の適切な防除や排水対策などの再点検を行うよう注意喚起を行いました。

部会では今後も、良質で食味の良いJAみやぎ登米のブランド「地中海キャベツ」の安定出荷に向けた活動を継続していく予定です。

○栗っこズッキーニフェアを開催中です
令和6年6月17日
栗原農業改良普及センター



栗原市で栽培された「栗っこズッキーニ」は、出荷量が県内第1位で、6～7月に出荷最盛期を迎えます。

それに併せて、元気くん市場仙台南店でズッキーニのレシピを配布するとともに、「栗っこズッキーニもっともっとキャンペーン」を開催しています。

ズッキーニを使った料理の写真に応募用のハッシュタグを付けて Instagram に投稿すると応募でき、応募いただいた方の中から合計7名の方に栗っこズッキーニ1箱（2kg）をプレゼントします。

この機会にぜひズッキーニ料理に挑戦してみてくださいはいかがでしょうか！

☆応募期間☆

令和6年6月15日（土）～令和6年7月15日（月）

☆応募方法☆

- ①公式 Instagram アカウント「ごさいんくりはら」 (@nhkhsinbk) をフォロー
- ②応募者は、期間中の応募用ハッシュタグ「#栗っこズッキーニキャンペーン 2024」及び「#（お住まいの都道府県名）」をキャプションにつけ、応募者のズッキーニ料理画像を投稿

【元気くん市場仙台南店】

営業時間 10：00～18：00

○今まさに満開！オリーブ園巡回
令和6年6月25日
石巻農業改良普及センター



令和6年6月13日と14日、石巻市内においてオリーブを栽培している4つの園地を生産者、石巻市職員及び普及センターとで巡回し、開花状況や病害虫の発生状況等を確認しました。

開花始は6月上旬で巡回当日は殆どの園地で満開を迎えており、例年より生育ステージが早まっているほか、着花量も多い状態でした。また、一部の園地で5月にハマキムシの発生が見られましたが、その後の薬剤散布により病害も含め発生は抑えられました。

石巻市のオリーブ栽培は、震災復興のシンボルとして平成26年から植栽をスタート、平成29年には「石巻市北限のオリーブ研究会」を発足させ、年々面積と生産量を拡大しています。今後も生育が順調に進み、昨年以上にオリーブ油等の生産拡大が期待されます。

○JA新みやぎあさひなねぎ部会栽培講習会と若手生産者交流会が開催されました！

令和6年6月26日

仙台農業改良普及センター





令和6年6月11日にJA新みやぎあさひな統括営農センター主催で、ねぎの栽培講習会が開催され、同ねぎ部会員37名が参加しました。

(株)渡辺採種場 瀬峰研究農場の研究員を講師に迎え、「梅雨から夏にかけての栽培管理のポイント」をテーマに、病虫害防除や排水対策、高温期の管理の注意点などについて講義が行われました。普及センターからは、今年度を実施した農薬展示試験の結果について情報を提供するとともに、今後発生が増加する、ねぎべと病の予防的防除とネギアザミウマの早期防除について注意喚起を行いました。

また、栽培講習会終了後に、普及センターが主催して若手生産者の交流会を開催し、ネットワークづくりを支援しました。交流会は、5名の生産者が参加し、初顔合わせのメンバーもいましたが、自分の生産状況や課題等を発表し、ざっくばらんに情報交換を行いました。

普及センターでは、引き続き、若手生産者の栽培技術の向上とネットワークづくりを重点的に支援し、農業の担い手育成（産地の活性化）に取り組んでいきます。

○令和6年度登米地域果樹産地協議会総会が開催されました

令和6年6月27日

登米農業改良普及センター



令和6年6月17日に、JAみやぎ登米東部園芸センターで令和6年度登米地域果樹産地協議会総会が開催され、生産者会員7名、関係機関職員5名が参加しました。

当協議会は、「登米地域果樹産地構造改革計画」の策定、推進を目的に令和2年7月に設立され、これまで、りんごの省力樹形（V字ジョイント栽培）による新植などの取り組みを進めてきました。

普及センターでは、引き続き関係機関と連携しながら、登米地域果樹産地協議会の取り組みを支援してまいります。

⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○水乾田直播栽培現地検討会が開催されました

令和6年6月3日

石巻農業改良普及センター



令和6年5月17日に、JAいしのまき稲作部会水稲乾田直播栽培現地検討会が開催され、石巻・東松島市の農業者など40人ほどが参加しました。検討会には、東北農業研究センターから講師を招き、乾田直播栽培ほ場を3か所巡回して稲の苗立ち本数や雑草の発生状況を確認し、今後の除草剤の処理時期や種類、水管理などについて説明しました。3月～4月上旬の降雨で播種時期は昨年より遅めでしたが、4月の記録的な高温により出芽や生育は順調で、どのほ場でも十分な苗立ちが確保されていました。参加者は、今後の管理や雑草対策について積極的に質問していました。

また、5月20日には稲作部会矢本支部で普及センター職員が講師として乾田直播現地検討会が開催され、農業者など30人が参加しました。5か所のほ場を巡回し、苗立ちや雑草の発生状況を確認し、今後の管理等について指導を行いました。石巻管内は乾田直播の実施面積が概ね1,000haと多いことから、今後も肥培管理技術等支援をしていきます。

○大豆栽培講習会が開催されました

令和6年6月11日

石巻農業改良普及センター



令和6年5月22日にJAいしのまき情報センターにおいて、JAいしのまき主催の大豆栽培講習会が開催され、生産者やJAの営農指導員ら関係者約30人が参加しました。初めにJA全農みやぎより宮城県の大豆情勢として、世界の大豆は生産量、消費量ともに増加しており、国内では国産大豆の需要が高まっているとの説明がありました。当普及センターからは、令和5年度は高温乾燥により品質が低下した

ことや、令和6年産のは種や施肥、中耕培土、病害虫及び雑草防除のそれぞれのポイントを説明しました。

普及センターでは、管内で生産される大豆や大豆種子の高位安定生産を支援していきます。

○刈取前の麦類現地検討会が開催されました 令和6年6月11日 石巻農業改良普及センター



令和6年5月23日、24日及び29日にJAいしのまき主催の麦類現地検討会が3地区で開催されました。

石巻地区、河南地区、河北地区それぞれで麦の刈取適期と今後の管理について検討を行いました。今年も気温が高く、麦の生育は平年より早く推移しているため、適期を逃さぬように収穫をすることが大変重要となります。麦の収穫時期は雨が多く、刈取適期はごく短期間に限られるため、参加者は、麦の生育を確かめ、高品質な麦の生産に向けて刈取の予定を確認していました。

国内産志向の高まりから麦類の需要は増加しており、管内の生産面積も拡大しています。普及センターはこれからも高品質麦の生産を支援していきます。

○小麦ほ場巡回指導会が開催されました 令和6年6月17日 登米農業改良普及センター



令和6年6月12日に豊里地区の令和6年産小麦ほ場巡回指導会が開催され、生産者6名が参加しました。

普及センターからは刈取適期の判断のポイントや赤かび病被害粒混入防止のための注意点などについて説明しました。令和6年産は刈取適期が早まっており、刈遅れにならないよう注意を呼びかけました。その後、穂水分測定結果による刈取適期予測日を参考に、巡回によりほ場状況を確認し、生産者と情報交

換を行いました。品質向上を目指し、豊里地区では6月中旬頃から刈取が始まる予定です。

普及センターでは、今後も登米管内の麦類の収量と品質の向上を目指した取組について支援を行ってまいります。

○JAみやぎ登米迫稲作経営部会の現地検討会が開催されました 令和6年6月18日 登米農業改良普及センター



令和6年6月12日に、JAみやぎ登米迫稲作経営部会の現地検討会が開催され、生産者及び農薬メーカー担当者約15人が参加しました。

当日は部会員の4ほ場を巡回し、水稻の除草剤試験の効果と生育状況の確認を行いました。除草剤試験については、4ほ場とも高い抑草効果を確認することができました。また、除草剤試験ほ場以外の残草しているほ場の状況や対策について活発な情報交換が行われました。今後の管理として水管理や中干しなどについて普及センターから情報提供を行い、生育は順調に進んでいることも説明しました。

普及センターでは、今後も水稻の収量・品質の向上を目指した取組について支援を行ってまいります。

○「特A奪還」を目指し、つや姫栽培講習会が開催されました 令和6年6月18日 登米農業改良普及センター



つや姫は、晩生で作期の分散が図れること、高温登熟性に優れることなどから、登米市でもひとめぼれに次ぐ主力品種となっています。

昨年度、宮城県産のつや姫は、初めて特AからAへランクを落としました。管内でも、登熟期間の記録的な高温による玄米品質の低下により茶米や充実不足粒が発生し、一等米比率が低下するなど、大きな影響を受けました。

それを受け6月12日、JAみやぎ登米迫稲作経営

部会が中心となり、「特A奪還」を目指してつや姫の栽培講習会が開催されました。当日は生産者14名及び関係機関の担当者約15名が参加し、普及センターからは、品種の特性や品質を低下させない施肥方法、昨年度の発生も踏まえた病害虫防除方法について説明しました。また、刈遅れにより茶米が発生しやすいので、適期刈り取りが大切であることも説明しました。

生産者からは、効果的なカメムシ防除の時期や、県内産のつや姫の評価についての質問があり、生産に対する意欲が伺えました。

普及センターでは、今後もつや姫及び水稻生産に対する支援を行ってまいります。

2. **持続可能な農業・農村の構築**

① **地域資源の活用等による地域農業の維持・発展**

○ **酒米サポーターズの田植えが開催されました**

令和6年6月4日

気仙沼農業改良普及センター



気仙沼市廿一地区は、中山間地域に棚田の広がる風光明媚な地域です。

清流「蔵の華」廿一会（会長：熊谷公兵氏）では、この地域で酒米「蔵の華」を約7ha栽培し、気仙沼市内の蔵元2社（株式会社男山本店、株式会社角星）に全量出荷しています。

令和6年5月26日に、廿一会員のほ場を会場に気仙沼市民有志らでつくる「酒米サポーターズ」の田植えが行われました。

当日は好天に恵まれ、廿一会の会員や蔵元関係者など約50人が参集しました。参加者は田んぼに足を取られつつも、楽しみながら丁寧に作業を進め、1時間余りで約5aの田植えを終えました。

秋には収穫イベントも企画されています。普及センターでは、高品質・多収に向け、現地での栽培研修会開催など、引き続き支援を行ってまいります。

○ **みやぎ食材伝道士認定に向けた生産現場実習**

「りんごの摘果作業」が 亘理町の遠藤果樹園で

開催されました

令和6年6月7日

亘理農業改良普及センター



令和6年5月30日（木）、亘理町の遠藤果樹園においてみやぎ食材伝道士「農林水産物生産現場実習「りんご」」が開催され、ホテル等の料理人3人が参加し、摘果の実習を行いました。みやぎ食材伝道士認定事業は、農作業実習等を通して生産者と料理人が交流を深め、料理人の方々により深く仙台地域の食材に関心や愛着を持っていただくことで、地域食材の利用拡大を推進することを目的に、平成19年度から実施しているものです。一定の現場実習を実施した料理人を認定し、料理の提供を通じて生産者の想いを消費者に伝え、消費者の地産地消に対する意識向上に寄与することを目指しています。

実習では遠藤果樹園の三代目遠藤圭一さんと範子さんから丁寧に作業の説明を受け、「ふじ」と「シナノスイート」の摘果を行いました。参加者は、中心果のみ残し、残りの側果を慎重に切り落としていきました。

摘果作業を行うことは、今年だけでなく、来年、再来年のりんごのためになること、直売しているお客様に対しておいしく大きく実らせるために重要であること等ご夫妻の熱い想いが伝えられました。参加した料理人の皆さんは、りんご栽培について理解を深め、さらに、品種に関する知識も得たいと意欲的でした。当普及センターからも亘理のりんごの特徴を伝えるとともに、今秋の実習作業（葉つみ・玉回し）を案内しました。今後とも当地域の農産物の活用拡大に向けた取組を支援してまいります。

○ **大崎地域「畑わさび」栽培現地検討会を開催しました**

令和6年6月11日

大崎農業改良普及センター





わさびの消費量は近年海外で急増していますが、国内では西日本の産地を中心に温暖化による気温上昇等で生産量が減少し、深刻な原料不足となっています。

このため、夏季冷涼な東北地域での生産拡大が期待されていることを受け、大崎農業改良普及センターでは、令和4年度からわさび加工メーカーの金印株式会社（名古屋市）と連携して栽培実証ほ場を設置し、わさび栽培の普及に取り組んできました。

この結果、6月下旬に初収穫を迎えることになったため、令和6年6月7日に関心の高い農業者を集めた現地検討会を開催しました。加美町の実証ほ場では、昨夏の猛暑にも関わらず順調に生育しており、実際にわさびの株を引き抜いて収穫調整のデモンストレーションを行いました。参加者は、初めて見る畑わさび栽培に関心も高く、栽培に意欲的な発言も聞かれ、今後のさらなる普及拡大が期待される検討会となりました。

**○表山田・三段田地区ほ場整備事業推進委員会
が開催されました
令和6年6月20日
気仙沼農業改良普及センター**



令和6年5月30日に表山田・三段田地区ほ場整備事業推進委員会が開催されました。

昨年度から県営農地整備事業の受託調査が始まり、2年目を迎えるに当たり、委員会と関係機関とで昨年までの議論の総括と今後スケジュール等について打合せを行い、相互に齟齬が生じないよう意見のすり合わせを行いました。

令和8年度に事業を開始できるよう、今年度も地域一丸となって進めていく方針が確認されました。また、この打合せ内容については、情報誌「かわら版」を発行し、各委員から地元関係者全員に周知することとしました。

普及センターでは、引き続き活動を支援していきます。

**○色麻町特産えごまの播種作業を機械化しました
令和6年6月24日
大崎農業改良普及センター**



えごまは、シソ科の植物で、その種子から搾油したえごま油は、魚油に含まれるDHAと同じ成分が含まれており、栄養価が高い食材として注目されています。色麻町では、平成12年から水田転作としてえごま栽培を振興しており、えごま油、ドレッシングなどの加工品は町の代表的な特産品です。

えごまは機械で定植でき、収穫までの管理作業はほとんどなく省力的な品目ですが、10aあたり4,000本前後使用する苗は、ゴマ粒ほどの種子を128穴のセルトレイに2粒播きして育苗するため、播種作業が栽培拡大の妨げの一因となっています。

そのため、今年度、町内で初めて4戸の生産者が共同で土入れ機と真空播種機を導入し、6月18日に播種作業を行いました。この日は約600トレイを5時間で播種することができました。今年は1,700トレイの播種を予定しており、真空播種機を操作した生産者は、「こんなに早く、きれいに蒔ける！」と感嘆の声をあげていました。

また、えごまの生産拡大に向けては、適期収穫期間が短いことも課題となっているため、普及センターでは、町えごま栽培推進協議会、種苗メーカーと連携して、収穫時期の異なる品種比較試験を行なうなど、引き続き町の特産物えごまの生産振興を支援していきます。

**○小牛田地域精進料理の会が定例会を開催しました
令和6年6月26日
美里農業改良普及センター**



地域に伝わる精進料理を受け継ぎ、伝承する活動を行っている「小牛田地域精進料理の会」が、令和6年度第1回定例会を6月11日に美里農業改良普及センターで開催しました。

今回は会員等8人が、季節の野菜を使用した「精進揚げ」や「そうめん汁」、「三角油揚げとパレンこんにゃく」等の料理の実習を通じた伝承に取り組みました。

当日は、予定していた7品の料理に加えて、「使用する食材の全てを活用する（野菜の皮も何も捨てない）」という精進料理の神髄に則って、だしを取った後の昆布や調理で余った野菜等を活用した煮物等を同時並行で作り、約2時間で手際よく完成させました。

完成した料理は「皿」や「坪」、「汁」といったそれぞれ決まった食器に盛り付けて配膳し、試食を行いました。会員及び参加者は、今回作った料理の由来や普段使いする際のポイント等について、料理を味わいながら情報交換を行っていました。

普及センターでは、引き続き地域伝統食の伝承や普及活動の支援を行っていきます。

②環境に配慮した持続可能な農業生産

○病害虫防除に関する研修会を開催しました

令和6年6月18日

大崎農業改良普及センター



国道47号線沿い、大崎市岩山地区に位置する道の駅「あ・ら・伊達な道の駅」は2020年、2021年のじゃらんの道の駅ランキングで1位となるなど、全国的にも人気の高い道の駅です。道の駅には、池月道の駅農産物出荷組合が運営主体となっている農産物直売所があり、新鮮な青果物や農産加工品の売り場は連日多くのお客様でにぎわっています。

普及センターでは、令和6年6月14日に出荷組合の組合員に対して安全・安心で環境にやさしい農産物生産をより一層推進するための研修会を開催しました。当日は普及センターの職員等3名を講師として、「みやぎの環境にやさしい農産物認証・表示制度」や農薬のみに頼らない病害虫防除法などについて説明を行いました。

普及センターでは、今後も安心・安全な農産物を皆様にお届けするため、このような研修会を随時開催し、生産者の方々の技術向上支援を行っていきます。

○新型アイガモロボがお披露目！スマート農機の活用で環境にも人にも優しい農業を！

令和6年6月20日

美里農業改良普及センター



大崎市や県、J A、生産者などで組織する「大崎市有機農業・グリーン化推進協議会」は、稲作で環境にやさしい農業に取り組むうえでネックとなる、水田の除草作業の負担を軽減するアイガモロボなどのスマート農機の現地講習会を大崎市松山で開催し、約30人が参加しました。

講習会では、国の「みどりの食料システム戦略」に対応した、有機農業に取り組む生産者に役立つ技術として、水田雑草の成長を抑えるアイガモロボと、スマートフォンを活用した水管理システムが紹介されました。さらに、新型のアイガモロボのデモンストレーションが行われ、参加者の注目を浴びていました。

開発中の新型のアイガモロボは、従来型と同様にソーラーパネルとバッテリーを搭載し、水田を自動で移動しながら雑草の発生を抑えるもので、従来型のスクレーパーの水流で泥を巻き上げる方式から、ブラシで泥を直接かき回す方式に変更されました。また、従来型より軽量化され、速度も向上したことから、より広い面積に対応できるとのことです。

通信方式の変更などで価格が従来型より安くなる見込みとの説明もあり、参加者は水田で稼働するアイガモロボに関心高く見つめていました。

普及センターでは、講習会を主催した協議会に参画し、生産者や関係機関と共に環境にやさしい技術の実証や普及に努めていきます。

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>
〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

<亘理>
〒989-2301
亘理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

<仙台>
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

<大崎>
〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

<美里>
〒987-0005
美里町北浦字笹館5
TEL:0229-32-3115

<栗原>
〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

<登米>
〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

<石巻>
〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>
〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068



***各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。**

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.209

発行日:2024年7月17日

発行:宮城県農政部農業振興課

編集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@pref.miyagi.lg.jp